

平成23年度

# 唐津市財務諸表

(基準モデル)

- ・貸借対照表
- ・行政コスト計算書
- ・純資産変動計算書
- ・資金収支計算書

平成25年3月

唐津市 財務部 財政課

## 目 次

<b>I 平成23年度 唐津市財務諸表の公表について</b>	1
<b>II 現金主義の決算書から財務諸表への組み替えイメージ</b>	2
<b>III 平成23年度 唐津市財務諸表</b>	
(1)貸借対照表(バランスシート)	3
(2)行政コスト計算書	4
(3)純資産変動計算書	5
(4)資金収支計算書	6
<b>IV 平成23年度 唐津市経年比較財務諸表</b>	
(1)貸借対照表(バランスシート)	7
(2)行政コスト計算書	8
(3)純資産変動計算書	9
(4)資金収支計算書	10
<b>V 分析比率</b>	11

# I 平成23年度 唐津市財務諸表の公表について

平成18年6月に成立した「簡素で効率的な政府を実現するための行政改革の推進に関する法律」を契機に、地方の資産・債務改革の一環として「新地方公会計制度の整備」が位置づけられました。これにより「新地方公会計制度研究会報告書」で示された「基準モデル」又は「総務省方式改訂モデル」を活用して、地方公共団体単体及び関連団体等を含む連結ベースでの4つの財務書類を人口3万人以上の都市においては、平成21年度までに整備し公表するよう通知されました。

こうした状況を踏まえ、本市では「基準モデル」で作成するために平成20年度に資産台帳の整備に着手し、平成19年度決算及び平成20年度決算の貸借対照表、行政コスト計算書、純資産変動計算書及び資金収支計算書の4表を平成22年3月から公表しています。複式簿記に基づき発生主義による財務書類4表を作成することにより、唐津市が所有する全ての資産と負債状況や行政サービスに要したコストが把握でき、将来的には予算編成や決算分析での活用を考えています。

## 連結対象とした会計の範囲

連結

単体

### 普通会計[4会計]

一般会計、養護老人ホーム特別会計、有線テレビ事業特別会計、北波多中央部開発事業特別会計

### 特別会計等[13会計]

国民健康保険特別会計、後期高齢者医療特別会計、介護保険特別会計、介護サービス事業特別会計、簡易水道特別会計、下水道特別会計、集落排水特別会計、浄化槽整備特別会計、競艇特別会計、観光施設特別会計、水道事業会計、工業用水道事業会計、唐津市民病院きたはた事業会計

### 外郭団体[7団体]

唐津市土地開発公社、(財)松浦河畔開発公社、(財)唐津市文化振興財団、(株)肥前風力エネルギー開発、(株)桃山天下市、(株)鳴神温泉、(株)キコリななやま

※ **単体**とは、普通会計に特別会計を含めたもので、**連結**とは、単体に外郭団体を含めたものです。なお、外郭団体のうち第三セクターについては、市の出資比率が50%以上の団体を対象としています。

## II 現金主義の決算書から財務諸表への組み替えイメージ



※発生主義	歳入	未収金(税等の滞納分)	a
	歳出	退職・賞与引当金など	b
		減価償却費等	c
		未払金など	d

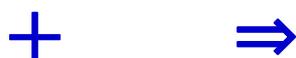
行政コスト計算書	経常費用	退職・賞与引当金など	b
		減価償却費等	c
		行政サービスに対する支出 <small>注2:退職金等の一部支出額を除く</small>	⑥
		公債費(利子の償還)	⑧
	経常収益	使用料・手数料等の収入	①
純行政コスト(経常費用－経常収益)			



注2:前年度の行政コスト計算書において、発生主義に基づき退職・賞与引当金として計上した額には、本年度実際に支出した退職金や賞与金の一部が含まれているため重複分を本年度支出額から控除しています。

唐津市歳入歳出決算書(現金主義)	歳入・歳出決算	歳入	使用料・手数料等の収入	①
			租税等の収入	②
			資産の処分による収入	③
			市債の発行による収入	④
			注1:繰越金	⑤
			行政サービスに対する支出	⑥
	歳出	資産形成に対する支出	⑦	
		公債費(元金・利子の償還)	⑧	
		歳入－歳出＝形式収支	⑨	
	財産に関する調書	基金などの積立金等	⑩	
		土地(市道等の底地を除く)	⑪	
		建物等(市道等の工作物を除く)	⑫	

資金収支計算書	経常的支出	行政サービスに対する支出	⑥	
	経常的収入	使用料・手数料等の収入	①	
		租税等の収入	②	
	経常的収支区分(①+②-⑥)		イ	
	資本的支出	資産形成に対する支出	⑦	
	資本的収入	資産の処分による収入	③	
	資本的収支区分(③-⑦)		ロ	
	基礎的財政収支(イ+ロ)			
	財務的支出	公債費(元金・利子の償還)	⑧	
	財務的収入	市債の発行による収入	④	
財務的収支区分(④-⑧)		ハ		



その他の資産等	資産	市道・林道・河川等	e
		リース資産	f
		建設中の資産	g
	負債	市債の残高	h

貸借対照表	金融資産	未収金(税等の滞納分)	a
		形式収支	⑨
		基金などの積立金等	⑩
	非金融資産 (資産台帳の整備 数量↓金額)	土地(市道等の底地を除く)	⑪
		建物等(市道等の工作物を除く)	⑫
		市道・林道・河川等	e
		リース資産(支払い済分)	f
		建設中の資産【建設仮勘定】	g
	負債	退職・賞与引当金など	b
		未払金など	d
		リース資産(未払い分)	f
		市債の残高	h
純資産(資産－負債)			

※ 発生主義の勘定科目は、実際に現金の出入りはありませんが、決算時点で支払い義務等が発生しているものについて、合理的な計算方法で算出した金額を計上しています。

注1:繰越金は、前年度の形式収支(歳入－歳出)の額であり、前年度の貸借対照表の金融資産として計上しているため、組み替えの対象外となります。

### Ⅲ 平成23年度 唐津市財務諸表

#### (1) 貸借対照表(バランスシート)

平成24年3月31日現在に保有する資産、負債、純資産を表示したものです。

(単位:百万円)

1 資産の部						2 負債の部							
項目	普通会計		単体		連結		項目	普通会計		単体		連結	
	金額	比率	金額	比率	金額	比率		金額	比率	金額	比率	金額	比率
(1)金融資産	21,150	6%	27,816	6%	28,854	7%	(1)流動負債	9,392	3%	15,117	4%	19,517	5%
①資金	2,484	1%	4,151	1%	4,405	1%	①公債(翌年度償還予定額)	7,874	2%	12,387	3%	12,387	3%
②債権	2,004	1%	5,935	1%	6,828	2%	②短期借入金	0	0%	0	0%	4,324	1%
(控除)貸倒引当金	-100	0%	-228	0%	-228	0%	③その他	1,518	0%	2,730	1%	2,806	1%
③有価証券	0	0%	0	0%	1	0%	(2)非流動(固定)負債	87,560	26%	148,236	35%	146,182	34%
④投資等	16,762	5%	17,958	4%	17,848	4%	①公債	72,898	22%	133,540	31%	133,540	31%
(2)非金融(公共)資産	315,907	94%	400,142	94%	401,599	93%	②借入金	0	0%	0	0%	736	0%
①事業用資産	104,245	31%	117,760	28%	119,217	28%	③引当金	14,527	4%	14,559	3%	11,770	3%
②インフラ資産	211,662	63%	282,382	66%	282,382	66%	④その他	135	0%	137	0%	136	0%
③繰延資産	0	0%	0	0%	0	0%	負債の部合計	96,952	29%	163,353	38%	165,699	38%
							3 純資産の部						
							純資産の部合計	240,105	71%	264,605	62%	264,754	62%
資産の部合計	337,057	100%	427,958	100%	430,453	100%	負債・純資産の部合計	337,057	100%	427,958	100%	430,453	100%

市民一人当たり

項目	普通会計	単体	連結	項目	普通会計	単体	連結
資産の合計	259 万円	329 万円	331 万円	負債の合計	75 万円	126 万円	127 万円
				純資産の合計	185 万円	203 万円	204 万円

※四捨五入したため一致しない部分があります。

#### 項目の説明

##### 1-(1)金融資産

- ①資金：形式収支額(歳入歳出の差し引き額)や歳計外現金などの現金や預金の資産
- ②債権：税等の未収金や貸付金などの資産
- ③有価証券：運用目的の有価証券
- ④投資等：出資金や基金などの積立金の資産

##### 1-(2)非金融資産

- ①事業用資産：庁舎や学校などの有形固定資産やソフトウェアなどの無形固定資産
- ②インフラ資産：道路や河川などの社会基盤となる資産

##### 2-(1)流動負債

- ①公債(翌年度償還予定)：地方債残高のうち翌年度償還予定額
- ②短期借入金：連結対象団体の短期借入金の残高

##### 2-(2)非流動負債

- ①公債(地方債)：地方債残高のうち翌年度に償還する額を除いた残高
- ②借入金：連結対象団体の長期借入金の残高
- ③引当金：退職給付引当金及び連結対象団体の負債に対する引当金

##### 3 純資産

- 純資産合計：これまでの世代が負担して蓄積された資産

#### 概要

今までに唐津市では、普通会計ベースで3,371億円、単体ベースで4,280億円、連結ベースで4,305億円の資産を形成してきています。

そのうち、純資産である、2,401億円(普通会計)、2,646億円(単体)、2,648億円(連結)については、これまでの世代の負担で支払いが済み、負債である970億円(普通会計)、1,634億円(単体)、1,657億円(連結)について、これからの世代が負担していくことになります。

※平成24年3月31日の唐津市の人口： 130,087 人

## (2) 行政コスト計算書(平成23年4月1日から平成24年3月31日)

1年間の行政運営コストのうち、福祉サービスなどの提供といった資産形成に結びつかない行政サービスに要したコストを人件費、物件費、経費、業務関連費用、移転支出に区分し表示したものです。

(単位:百万円)

項目	普通会計		単体		連結	
	金額	比率	金額	比率	金額	比率
<b>1 経常費用 計 (行政コスト総額)</b>	<b>51,825</b>	<b>100%</b>	<b>123,801</b>	<b>100%</b>	<b>124,372</b>	<b>100%</b>
① 人件費	11,217	22%	13,556	11%	13,780	11%
② 物件費	6,632	13%	8,160	7%	8,177	7%
③ 経費	6,062	12%	38,311	31%	38,378	31%
④ 業務関連費用	1,428	3%	2,806	2%	3,070	2%
⑤ 移転支出	26,486	51%	60,968	49%	60,967	49%
他会計への移転支出	6,774	13%	0	0%	0	0%
補助金等移転支出	3,136	6%	3,136	3%	3,114	3%
社会保障関係費等移転支出	9,501	18%	36,617	30%	36,617	29%
その他の移転支出	7,075	14%	21,215	17%	21,236	17%
<b>2 経常収益 計</b>	<b>2,771</b>	<b>5%</b>	<b>51,806</b>	<b>42%</b>	<b>52,375</b>	<b>42%</b>
① 業務収益	2,050	4%	50,820	41%	51,377	41%
② 業務関連収益	721	1%	986	1%	998	1%
<b>3 純行政コスト (1経常費用－2経常収益)</b>	<b>49,054</b>	<b>95%</b>	<b>71,995</b>	<b>58%</b>	<b>71,997</b>	<b>58%</b>

市民一人当たり

項目	普通会計	単体	連結
1 経常費用 計 (行政コスト総額)	40 万円	95 万円	96 万円
2 経常収益 計	2 万円	40 万円	40 万円
3 純行政コスト (1経常費用－2経常収益)	38 万円	55 万円	55 万円

※四捨五入したため一致しない部分があります。

### 項目の説明

#### 1 経常費用

- ①人件費：職員給与や議員報酬、退職給付費用など
- ②物件費：備品や消耗品、施設等の維持修繕に係る経費や事業用資産の減価償却費など
- ③経費：委託料や使用料、旅費、手数料、広告料など
- ④業務関連費用：地方債や関係団体の借入金の償還利子など
- ⑤移転支出：市民への補助金や児童手当、生活保護費などの社会保障費など

#### 2 経常収益

- ①業務収益：公共施設を使用した際に徴収する使用料や証明書の発行手数料など
- ②業務外収益：利子及び配当金、財産売却収入、雑入など

### 概要

平成23年度の行政コストの総額は、普通会計ベースで518億円、単体ベースで1,238億円、連結ベースで1,244億円になります。

行政サービスの利用に対する対価として市民の皆さんが負担した使用料や手数料などの経常収益は、普通会計ベースで28億円、単体ベースで518億円、連結ベースでは524億円になります。

行政コストの総額から経常収益を引いた純行政コストは、普通会計ベースで491億円、単体ベースで720億円、連結ベースで720億円で、この不足分は、市税や地方交付税などの一般財源や国・県補助金で賄っています。

### (3) 純資産変動計算書(平成23年4月1日から平成24年3月31日)

純資産(これまでの世代が負担して蓄積された資産)が平成23年度中にどのように増減したかを財源の変動、資産形成充当財源の変動、その他純資産の変動に区分し表示したものです。

(単位:百万円)

項目	普通会計		単体		連結	
	金額	比率	金額	比率	金額	比率
<b>I 前期末残高</b>	<b>245,755</b>	<b>100%</b>	<b>270,609</b>	<b>100%</b>	<b>270,780</b>	<b>100%</b>
(イ) 財源変動の部=(2調達-1使途)	1,433	1%	917	0%	934	0%
1 財源の使途	63,843	26%	94,506	35%	94,518	35%
(1) 純経常費用(純行政コスト)への財源措置	49,054	20%	71,995	27%	71,997	27%
(2) 固定資産形成への財源措置	4,654	2%	9,056	3%	9,064	3%
(3) 長期金融資産形成への財源措置	1,879	1%	2,096	1%	2,096	1%
(4) その他の財源の使途	8,256	3%	11,359	4%	11,361	4%
2 財源の調達	65,276	27%	95,423	35%	95,452	35%
(1) 税込・社会保険料	13,984	6%	20,135	7%	20,135	7%
(2) 補助金等の移転収入	37,646	15%	57,716	21%	57,716	21%
(3) その他の財源の調達	13,646	6%	17,572	6%	17,601	7%
(ロ) 資産形成充当財源変動の部=(1+2+3)	-7,083	-3%	-6,921	-3%	-6,960	-3%
1 固定資産の変動	-6,927	-3%	-6,123	-2%	-6,127	-2%
2 長期金融資産の変動	-74	0%	-334	0%	-334	0%
3 評価・換算差額等の変動	-82	0%	-464	0%	-499	0%
(ハ) その他の純資産変動の部=(1+2+3)	0	0%	0	0%	0	0%
1 少数株主持分の変動	0	0%	0	0%	3	0%
2 開始時未分析残高の変動	0	0%	0	0%	0	0%
3 その他純資産の変動	0	0%	0	0%	-3	0%
<b>II 当期変動額合計=(イ+ロ+ハ)</b>	<b>-5,650</b>	<b>-2%</b>	<b>-6,004</b>	<b>-2%</b>	<b>-6,026</b>	<b>-2%</b>
<b>III 当期末残高=(I+II)</b>	<b>240,105</b>	<b>98%</b>	<b>264,605</b>	<b>98%</b>	<b>264,754</b>	<b>98%</b>

※四捨五入したため一致しない部分があります。

※比率は前期末残高を基準としています。

#### 項目の説明

(イ) 財源の変動：行政コスト計算書に計上されない資金の流入流出を表示

1 財源の使途：市税などの一般財源や国・県補助金などの財源をどのようなものに使ったかを表示

- (1) 純経常費用への財源措置：純経常費用(純行政コスト)に支出した額
- (2) 固定資産形成への財源措置：固定資産の形成のために支出した額
- (3) 長期金融資産形成への財源措置：基金積立や貸付金など長期金融資産形成のために支出した額
- (4) その他の財源の使途：インフラ資産に係る直接資本減耗の額など

2 財源の調達：財源をどのような収入で調達したかを表示

- (1) 税込・社会保険料：市税や利子割交付金などの交付金、特別会計の保険料等の収入
- (2) 補助金等の移転収入：国・県補助金など
- (3) その他の財源調達：貸付金の償還収入や固定資産の売却収入など

(ロ) 資産形成充当財源の変動：財源を将来世代も利用可能な固定資産形成等にどの程度使ったかを表示

- 1 固定資産の変動：公共施設や道路などの資産取得や売却、減価償却等による増減額を表示
- 2 長期金融資産の変動：基金、貸付金、出資金などの長期金融資産の増減額を表示
- 3 評価・換算差額等の変動：固定資産や金融資産の当該年度に発生した評価益、評価損を表示

(ハ) その他の純資産変動：財源、資産形成充当財源の変動以外の変動を表示

- 1 少数株主分の変動：本市以外の株主に帰属する純資産に相当する額の増減を表示

#### 概要

平成23年度は、普通会計ベースで57億円、単体ベースで60億円、連結ベースで60億円の純資産が減少しており、総額で、2,401億円(普通会計)、2,646億円(単体)、2,648億円(連結)になりました。

なお、財源変動額が、普通会計ベースで14億円、単体ベースで9億円、連結ベースで9億円増加していますが、これは、将来世代に対する財源の流入を意味します。また、発生主義による基礎的財政収支に相当するものです。

また、資産形成充当財源変動額が、普通会計ベースで71億円、単体ベースで69億円、連結ベースで70億円減少していますが、これは、固定資産形成に比較して固定資産の劣化が大きいことが主な要因です。

#### (4) 資金収支計算書(平成23年4月1日から平成24年3月31日)

1年間の資金の増減を経常的収支、資本的収支、財務的収支に区分し表示したものです。

(単位:百万円)

項目	普通会計	単体	連結
(イ)経常的収支区分(②収入－①支出)	6,644	10,802	11,197
①経常的支出	47,726	118,006	118,425
②経常的収入	54,370	128,808	129,622
(ロ)資本的収支区分(②収入－①支出)	-4,311	-7,908	-7,916
①資本的支出	6,533	10,611	10,619
②資本的収入	2,222	2,703	2,703
<b>基礎的財政収支(イ+ロ)</b>	<b>2,333</b>	<b>2,894</b>	<b>3,281</b>
(ハ)財務的収支区分(②収入－①支出)	-1,970	-2,843	-3,232
①財務的支出(注)	10,192	16,872	17,414
②財務的収入	8,222	14,029	14,182
<b>1 当期資金収支(イ+ロ+ハ)</b>	<b>363</b>	<b>51</b>	<b>49</b>
<b>2 期首資金残高</b>	<b>2,121</b>	<b>4,100</b>	<b>4,356</b>
<b>3 期末資金残高(1+2)</b>	<b>2,484</b>	<b>4,151</b>	<b>4,405</b>
(注)うち、公債・借入金支払利息支出	1,325	2,684	2,948

#### 項目の説明

イ-①経常的支出：行政サービスを行う中で、毎年度継続的に支出されるもの  
(人件費、物件費、補助費、扶助費など)

イ-②経常的収入：行政サービスを行う中で、毎年度継続的に収入されるもの  
(市税、保険料、使用料、手数料など)

ロ-①資本的支出：公共施設や道路整備などの資産形成、投資や貸付金などの金融資産形成に支出したもの

ロ-②資本的収入：土地などの固定資産の売却収入など

ハ-①財務的支出：地方債や借入金など利子や元本の償還

ハ-②財務的収入：地方債や借入金の収入

#### 概要

平成23年度は、普通会計ベースで4億円、単体ベースで0.5億円、連結ベースで0.5億円の資金が増加しており、期末資金残高は、普通会計ベースで25億円、単体ベースで42億円、連結ベースで44億円になりました。  
基礎的財政収支は、公債費を賄う財源となるものですが、普通会計ベースで23億円、単体ベースで29億円、連結ベースで33億円でした。

IV 平成23年度 唐津市経年比較財務諸表  
(1) 貸借対照表(バランスシート)

(単位:百万円)

会計単位		普通会計						単 体						連 結					
項目		22年度末		23年度末		対前年		22年度末		23年度末		対前年		22年度末		23年度末		対前年	
		金額	比率	金額	比率	金額	比率	金額	比率	金額	比率	金額	比率	金額	比率	金額	比率	金額	比率
資産の部	(1)金融資産	21,355	6%	21,150	6%	-205	-1%	28,028	6%	27,816	6%	-212	-1%	29,312	7%	28,854	7%	-458	-2%
	①資金	2,121	1%	2,484	1%	363	17%	4,100	1%	4,151	1%	51	1%	4,356	1%	4,405	1%	49	1%
	②債権	2,455	1%	2,004	1%	-451	-18%	5,786	1%	5,935	1%	149	3%	6,923	2%	6,828	2%	-95	-1%
	(控除)貸倒引当金	-108	0%	-100	0%	8	7%	-243	0%	-228	0%	15	6%	-243	0%	-228	0%	15	6%
	③有価証券	0	0%	0	0%	0		0	0%	0	0%	0		1	0%	1	0%	0	0%
	④投資等	16,887	5%	16,762	5%	-125	-1%	18,385	4%	17,958	4%	-427	-2%	18,275	4%	17,848	4%	-427	-2%
	(2)非金融(公共)資産	322,712	94%	315,907	94%	-6,805	-2%	406,393	94%	400,142	94%	-6,251	-2%	407,787	93%	401,599	93%	-6,188	-2%
	①事業用資産	104,488	30%	104,245	31%	-243	0%	118,198	27%	117,760	28%	-438	0%	119,592	27%	119,217	28%	-375	0%
	②インフラ資産	218,224	63%	211,662	63%	-6,562	-3%	288,195	66%	282,382	66%	-5,813	-2%	288,195	66%	282,382	66%	-5,813	-2%
	③繰延資産	0	0%	0	0%	0		0	0%	0	0%	0		0	0%	0	0%	0	0%
	資産の部合計	344,067	100%	337,057	100%	-7,010	-2%	434,421	100%	427,958	100%	-6,463	-1%	437,099	100%	430,453	100%	-6,646	-2%
負債の部	(1)流動負債	10,098	3%	9,392	3%	-706	-7%	16,211	4%	15,117	4%	-1,094	-7%	20,447	5%	19,517	5%	-930	-5%
	①公債(翌年度償還予定額)	8,331	2%	7,874	2%	-457	-5%	12,827	3%	12,387	3%	-440	-3%	12,827	3%	12,387	3%	-440	-3%
	②短期借入金	0	0%	0	0%	0		803	0%	0	0%	-803	-100%	4,978	1%	4,324	1%	-654	-13%
	③その他	1,767	1%	1,518	0%	-249	-14%	2,581	1%	2,730	1%	149	6%	2,642	1%	2,806	1%	164	6%
	(2)非流動(固定)負債	88,214	26%	87,560	26%	-654	-1%	147,601	34%	148,236	35%	635	0%	145,872	33%	146,182	34%	310	0%
	①公債	72,768	21%	72,898	22%	130	0%	132,114	30%	133,540	31%	1,426	1%	132,114	30%	133,540	31%	1,426	1%
	②借入金	0	0%	0	0%	0		0	0%	0	0%	0		1,011	0%	736	0%	-275	-27%
	③引当金	15,103	4%	14,527	4%	-576	-4%	15,138	3%	14,559	3%	-579	-4%	12,397	3%	11,770	3%	-627	-5%
	④その他	343	0%	135	0%	-208	-61%	349	0%	137	0%	-212	-61%	350	0%	136	0%	-214	-61%
		負債の部合計	98,312	29%	96,952	29%	-1,360	-1%	163,812	38%	163,353	38%	-459	0%	166,319	38%	165,699	38%	-620
	純資産の部合計	245,755	71%	240,105	71%	-5,650	-2%	270,609	62%	264,605	62%	-6,004	-2%	270,780	62%	264,754	62%	-6,026	-2%
	負債・純資産の部合計	344,067	100%	337,057	100%	-7,010	-2%	434,421	100%	427,958	100%	-6,463	-1%	437,099	100%	430,453	100%	-6,646	-2%

増減理由

資産の部

非金融資産については、減価償却費が固定資産形成より大きかったため、連結ベースで事業用資産が4億円、インフラ資産が58億円程度減少しました。

負債の部

非流動負債の公債費については、水道事業会計、簡易水道特別会計、競艇特別会計等が増加したため、連結ベースで14億円の増加となりました。非流動負債の引当金については、人員の減少により職員の退職に伴い将来支払われる退職金の見積額が減少し、連結ベースで6億円減少しました。

## (2) 行政コスト計算書

(単位: 百万円)

会計単位 項目	普通会計						単 体						連 結					
	22年度		23年度		対前年		22年度		23年度		対前年		22年度		23年度		対前年	
	金額	比率	金額	比率	金額	比率	金額	比率	金額	比率	金額	比率	金額	比率	金額	比率	金額	比率
1 経常費用 計 (行政コスト総額)	51,519	100%	51,825	100%	306	1%	128,347	100%	123,801	100%	-4,546	-4%	129,100	100%	124,372	100%	-4,728	-4%
① 人件費	11,385	22%	11,217	22%	-168	-1%	13,798	11%	13,556	11%	-242	-2%	14,023	11%	13,780	11%	-243	-2%
② 物件費	8,400	16%	6,632	13%	-1,768	-21%	9,966	8%	8,160	7%	-1,806	-18%	10,106	8%	8,177	7%	-1,929	-19%
③ 経費	6,482	13%	6,062	12%	-420	-6%	45,042	35%	38,311	31%	-6,731	-15%	45,125	35%	38,378	31%	-6,747	-15%
④ 業務関連費用	1,516	3%	1,428	3%	-88	-6%	2,855	2%	2,806	2%	-49	-2%	3,130	2%	3,070	2%	-60	-2%
⑤ 移転支出	23,736	46%	26,486	51%	2,750	12%	56,686	44%	60,968	49%	4,282	8%	56,716	44%	60,967	49%	4,251	7%
他会計への移転支出	6,344	12%	6,774	13%	430	7%	0	0%	0	0%	0		0	0%	0	0%	0	
補助金等移転支出	3,191	6%	3,136	6%	-55	-2%	3,305	3%	3,136	3%	-169	-5%	3,305	3%	3,114	3%	-191	-6%
社会保障関係費等移転支出	9,084	18%	9,501	18%	417	5%	35,156	27%	36,617	30%	1,461	4%	35,156	27%	36,617	29%	1,461	4%
その他の移転支出	5,117	10%	7,075	14%	1,958	38%	18,225	14%	21,215	17%	2,990	16%	18,255	14%	21,236	17%	2,981	16%
2 経常収益 計	2,780	5%	2,771	5%	-9	0%	58,079	45%	51,806	42%	-6,273	-11%	58,796	46%	52,375	42%	-6,421	-11%
① 業務収益	2,030	4%	2,050	4%	20	1%	57,033	44%	50,820	41%	-6,213	-11%	57,735	45%	51,377	41%	-6,358	-11%
② 業務関連収益	750	1%	721	1%	-29	-4%	1,046	1%	986	1%	-60	-6%	1,061	1%	998	1%	-63	-6%
3 純行政コスト (1-2)	48,739	95%	49,054	95%	315	1%	70,268	55%	71,995	58%	1,727	2%	70,304	54%	71,997	58%	1,693	2%

### 増減理由

#### 1 経常費用

- ① 人件費については、職員定員適正化計画に基づく職員数の減により減少しました。
- ② 物件費は、減価償却費が増加したものの施設の維持補修費が減少したため、全体では減となりました。
- ③ 経費の減少は、競艇事業の経費減少が主な要因です。
- ④ 業務関連費用の減少は、市債の低利資金への借換などによる利子分の支払い額の減が主な要因です。
- ⑤ 移転支出は、子ども手当等の扶助費や介護保険事業等の社会保障関係費の増及び簡易水道、競艇事業の負担金増により増加しました。

#### 2 経常収益

経常収益の減少は、競艇事業収入等の減少が主な要因です。

### (3)純資産変動計算書

(単位:百万円)

会計単位 項目	普通会計						単 体						連 結					
	22年度		23年度		対前年		22年度		23年度		対前年		22年度		23年度		対前年	
	金額	比率	金額	比率	金額	比率	金額	比率	金額	比率	金額	比率	金額	比率	金額	比率	金額	比率
I 前期末残高	251,711	100%	245,755	100%	-5,956	-2%	275,784	100%	270,609	100%	-5,175	-2%	275,840	100%	270,780	100%	-5,060	-2%
(イ)財源変動の部=(2調達-1使用)	1,705	1%	1,433	1%	-272	-16%	1,919	1%	917	0%	-1,002	-52%	2,078	1%	934	0%	-1,144	-55%
1財源の使用	62,086	25%	63,843	26%	1,757	3%	91,632	33%	94,506	35%	2,874	3%	91,672	33%	94,518	35%	2,846	3%
(1)純経常費用(純行政コスト)への財源措置	48,739	19%	49,054	20%	315	1%	70,268	25%	71,995	27%	1,727	2%	70,304	25%	71,997	27%	1,693	2%
(2)固定資産形成への財源措置	2,080	1%	4,654	2%	2,574	124%	6,832	2%	9,056	3%	2,224	33%	6,835	2%	9,064	3%	2,229	33%
(3)長期金融資産形成への財源措置	2,851	1%	1,879	1%	-972	-34%	3,020	1%	2,096	1%	-924	-31%	3,020	1%	2,096	1%	-924	-31%
(4)その他の財源の使用	8,416	3%	8,256	3%	-160	-2%	11,512	4%	11,359	4%	-153	-1%	11,513	4%	11,361	4%	-152	-1%
2財源の調達	63,791	25%	65,276	27%	1,485	2%	93,551	34%	95,423	35%	1,872	2%	93,750	34%	95,452	35%	1,702	2%
(1)税込・社会保険料	14,161	6%	13,984	6%	-177	-1%	20,305	7%	20,135	7%	-170	-1%	20,305	7%	20,135	7%	-170	-1%
(2)補助金等の移転収入	37,275	15%	37,646	15%	371	1%	57,082	21%	57,716	21%	634	1%	57,104	21%	57,716	21%	612	1%
(3)その他の財源の調達	12,355	5%	13,646	6%	1,291	10%	16,164	6%	17,572	6%	1,408	9%	16,341	6%	17,601	7%	1,260	8%
(ロ)資産形成充当財源変動の部=(1+2+3)	-7,661	-3%	-7,083	-3%	578	8%	-7,094	-3%	-6,921	-3%	173	2%	-7,137	-3%	-6,960	-3%	177	2%
1 固定資産の変動	-9,086	-4%	-6,927	-3%	2,159	24%	-8,268	-3%	-6,123	-2%	2,145	26%	-8,278	-3%	-6,127	-2%	2,151	26%
2 長期金融資産の変動	1,781	1%	-74	0%	-1,855	-104%	1,530	1%	-334	0%	-1,864	-122%	1,530	1%	-334	0%	-1,864	-122%
3 評価・換算差額等の変動	-356	0%	-82	0%	274	77%	-356	0%	-464	0%	-108	-30%	-389	0%	-499	0%	-110	-28%
(ハ)その他の純資産変動の部=(1+2+3)	0	0%	0	0%	0		0	0%	0	0%	0		0	0%	0	0%	0	
1 少数株主持分の変動	0	0%	0	0%	0		0	0%	0	0%	0		2	0%	3	0%	1	50%
2 開始時未分析残高の変動	0	0%	0	0%	0		0	0%	0	0%	0		0	0%	0	0%	0	
3 その他純資産の変動	0	0%	0	0%	0		0	0%	0	0%	0		-2	0%	-3	0%	-1	-50%
II 当期変動額合計=(イ+ロ+ハ)	-5,956	-2%	-5,650	-2%	306	5%	-5,175	-2%	-6,004	-2%	-829	-16%	-5,059	-2%	-6,026	-2%	-967	-19%
III 当期末残高=(I+II)	245,755	98%	240,105	98%	-5,650	-2%	270,609	98%	264,605	98%	-6,004	-2%	270,780	98%	264,754	98%	-6,026	-2%

#### 増減理由

##### (イ)財源変動の部

1の(2)固定資産形成への財源措置の増加は、本庁舎大手口別館整備費及び唐津市民交流プラザ整備費の増が主な要因です。

1の(3)長期金融資産形成への財源措置の減少は、財政調整基金等への積立金の減が主な要因です。

2の(2)補助金等の移転収入の増加は、交付税の増加が主な要因です。

##### (ロ)資産形成充当財源変動の部

1 固定資産の変動の額が前年度と比較して増加しているのは、本庁舎大手口別館及び唐津市民交流プラザの増加が主な要因です。

2 長期金融資産の変動の減少は、財政調整基金等の積立金の減少が主な要因です。

#### (4) 資金収支計算書

(単位: 百万円)

会計単位 項目	普通会計			単 体			連 結		
	22年度	23年度	対前年	22年度	23年度	対前年	22年度	23年度	対前年
(イ) 経常的収支区分(②収入－①支出)	6,032	6,644	612	11,751	10,802	-949	12,330	11,197	-1,133
① 経常的支出	47,801	47,726	-75	122,869	118,006	-4,863	123,282	118,425	-4,857
② 経常的収入	53,833	54,370	537	134,620	128,808	-5,812	135,612	129,622	-5,990
(ロ) 資本的収支区分(②収入－①支出)	-3,617	-4,311	-694	-7,952	-7,908	44	-7,955	-7,916	39
① 資本的支出	4,931	6,533	1,602	9,685	10,611	926	9,688	10,619	931
② 資本的収入	1,314	2,222	908	1,733	2,703	970	1,733	2,703	970
<b>基礎的財政収支(イ+ロ)</b>	<b>2,415</b>	<b>2,333</b>	<b>-82</b>	<b>3,799</b>	<b>2,894</b>	<b>-905</b>	<b>4,375</b>	<b>3,281</b>	<b>-1,094</b>
(ハ) 財務的収支区分(②収入－①支出)	-2,421	-1,970	451	-3,978	-2,843	1,135	-4,569	-3,232	1,337
① 財務的支出(注)	9,851	10,192	341	15,918	16,872	954	16,586	17,414	828
② 財務的収入	7,430	8,222	792	11,940	14,029	2,089	12,017	14,182	2,165
1 当期資金収支(イ+ロ+ハ)	-6	363	369	-179	51	230	-194	49	243
2 期首資金残高	2,127	2,121	-6	4,279	4,100	-179	4,550	4,356	-194
3 期末資金残高(1+2)	2,121	2,484	363	4,100	4,151	51	4,356	4,405	49
(注) うち、公債・借入金支払利息支出	1,420	1,325	-95	2,748	2,684	-64	3,021	2,948	-73

#### 増減理由

##### (イ) 経常的収支区分

- ① 経常的支出の減少は、競艇事業経費支出の減が主な要因です。
- ② 経常的収入の減少は、競艇事業収益収入の減が主な要因です。

##### (ロ) 資本的収支区分

- ① 資本的支出の増加は、事業資産(固定資産形成)の増が主な要因です。
- ② 資本的収入の増加は、基金の取崩による収入の増が主な要因です。

##### (ハ) 財務的収支区分

- ① 財務的支出の増加は、公債(借入金)元金償還の増が主な要因です。
- ② 財務的収入の増加は、公債発行収入の増が主な要因です。

## V 分析比率

### 1. 社会資本形成の世代間比率〔負債／（事業用資産＋インフラ資産）〕

- 社会資本の整備の結果を示す事業用資産とインフラ資産を市債などの負債によってどれくらい調達したかを表す。  
この指標が高いほど将来の世代が負担する割合が高いことを表す。

	平成23年度	平成22年度	比較増減
普通会計	25.6%	25.1%	0.5%
単体	36.5%	35.9%	0.6%
連結	37.6%	37.0%	0.6%

### 2. 純資産比率〔純資産／総資産〕

- 企業会計でいう「自己資本比率」に相当し、この比率が高いほど財政状況が健全であるといえる。  
総資産のうち返済義務のない純資産がどれくらいの割合かを表す。

	平成23年度	平成22年度	比較増減
普通会計	71.2%	71.4%	-0.2%
単体	61.8%	62.3%	-0.5%
連結	61.5%	61.9%	-0.4%

### 3. 負債比率〔負債／純資産〕

- 純資産（自己資本）に対する負債（借入金）の割合を表すもので、この指標が低いほど財政状況が健全であるといえる。

	平成23年度	平成22年度	比較増減
普通会計	40.4%	40.0%	0.4%
単体	61.7%	60.5%	1.2%
連結	62.6%	61.4%	1.2%

「社会資本形成の世代間比率」及び「負債比率」が普通会計に比べて単体や連結の率が高いのは、水道事業や下水道事業が将来の使用料収入で資金回収することを前提として市債を活用する仕組みとなっていることに加えて、市債の償還年限が普通会計よりも長いことが主な要因です。